

稲穂北に輝く にぎりめし



令和4年度 穂北中学校だより

7月号

穂北中HP

校長

伊東 泰彦



素晴らしかったロードレース大会！

12月15日に校内ロードレース大会を実施しました。前日までの寒さや強風がうそのように穏やかな晴天となり絶好のスポーツ日和でした。今年の生徒たちは、作

年度以上に体育の授業中の練習や放課後の体力向上の時間に取り組んでくれていましたので大会が楽しみでした。本校の生徒たちは、走るのが得意な人は自分の目標タイム

を目指して力走しますし、走るのがかなり苦手な生徒も自分のペースを守りながら最後までしっかりと完走します。とても清々しい感動的な大会になります。

中でも、三年生全員が、これまで練習できなかった初参加の生徒に寄り添って伴走し、最後は全員でゴールした姿はとても美しく、涙を流す方もおられる程の感動でした。



上位入賞者の力走と表彰



女子の部のスタート



三年生全員でのゴール

【女子の部】	【男子の部】
1位：黒木柚稀（2年）	1位：橋口慶到（2年）
2位：黒木優月（1年）	2位：黒木涼雅（2年）
3位：黒木瞳月（1年）	3位：北村心斗（3年）
4位：金丸日香（1年）	4位：橋口響希（3年）
5位：小山凜乃（3年）	5位：中村優大（2年）

穂北城のジオラマを作成しました！



←フリースタッフJr.の生徒たち

今年の6月号にも書きましたが、茶臼原台地の西端に穂北城という戦国期の山城がありました。南に断崖と一つ瀬川のある天然の要害です。校区内にある歴史を多くの人知ってもらおうと、新結成された一年生のフリースタッフJr.の生徒たちが制作しました。西都市立図書館に展示中です！

【感想】

校長先生が教えてくださった穂北城の歴史や資料を参考に、その当時の穂北城を想像してみました。

自分たちが城主になった気持ちで、敵が攻めてきた場合を想定し、守るうえで、どこに柵を設置して、どこに木を配置すれば、守りやすいかなども想像し、話し合いながらジオラマを作成するのが楽しかったです。

ジオラマを作成するうちに、穂北城が「戦国時代」と「令和」を繋げてくれて、とても身近に感じられるようになりました。

穂北城という歴史ある建物が、実は、私たちの身近にありました。それは、私たちの住んでいる穂北地区にも、戦国時代があり、武士がいて農民がいて、戦があったことを意味しています。そのことに驚きを感じ、歴史の1ページにかすかに触れる体験ができたことを嬉しく思いました。

私たちの作ったジオラマが、穂北城への興味を持つ第一歩になってほしいです。

(平野心華)

郷土PRポスターを看板掲示しました！

本校の生徒たちが作成してくれた郷土PRポスターですが、校内に常設掲示して地域にも郷土の魅力を発信していきたいと考え、昨年度と本年度の優秀作品6点を看板にし、本校駐車場のフェンスに掲示しています。予算は、本年度本校が指定を受けている宮崎県教育委員会のキャリア教育事業費を活用しました。これを皮切りに、R5、R6…と掲示数を増やし、穂北地域内にも掲示していきたいと考えています。近くに来られた時はぜひご覧ください！



大学生たちと交流学習をしました！

12月13日（火）、徳島県でキャリア教育支援をしている大学生NPO「ひとつむぎ」のメンバーが来校されました。現理事長の大学生をはじめ、世話役の社会人や地元役場に就職している22歳の職員など5名が来てくださり、一年の生徒が対話的な活動にチャレンジしました。

最初の大学生のプレゼンに対して次々と質問をする生徒たち。雰囲気盛り上がった後は本校が制作した紙芝居を紹介。紙芝居を読んでもくれた中山天音さんの朗読がとても上手でびっくりでした。

その後は、4グループに分かれての哲学対話を行い、徳島の方への質問や「なぜ勉強が必要なのか？」「社会で活躍するにはどんな力が必要だろうか？」といったことについて意見交換をしました。本校の一年生たちが、すごく話せるようになっていたりことや鋭い質問を出せることに驚き、成長も感じました。今後の活躍が楽しみです。



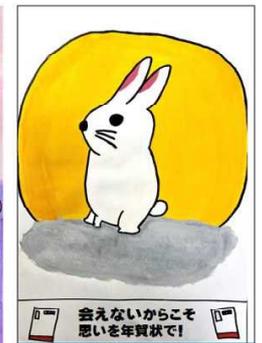
今年も年賀状啓発ポスターを作成しました！



西都郵便局からの依頼を受け、今年も生徒たちが年賀状啓発ポスターを作成してくれました。絵の具やペン、タブレットを上手に使ったり切り絵をしたりしながら、心温まる作品が出来上がりました。西都郵便局の窓（大ポスター）と、上穂北郵便局の入口付近（小ポスター）に掲示されていますので、機会があればぜひご覧ください。



作成者
海老原 桃
金丸 日香
萱島 莉乃
久保 愛菜
黒木 大智
平野 心華



穂波から壽き田の里

西都原考③

今年も西都原の菜の花植えボランティア

に参加した。昨年に引き続き、全長二百mの畝に「穂北ロード」を作りたい、との思いもあったからだ。生徒に呼びかけたところ、三年生やフリースタッフなど約30名が参加してくれた。昨年もそうだったが、本校の生徒たちには「地域貢献のボランティア」への参加意識が育っていて心が温まる▼植え付けをしていると、黒土台地への親近感が芽生えてくるが、黒土には懐かしい思い出がある。母の実家は川南で、実家に行くとき祖母がよく黒土の話をした。木城生まれの祖母は、黒土にあまり好意的でなかったが、今思うとそれは、戦後の農地改革によって都市での生活から一転、思いもよらぬ就農を余儀なくされたことと重なっていたようにも思える▼ところで、川南に向かう途中、何気なく景色を見てみると、新田原や茶臼原は黒土、いったん木城に下りて再び川南に上ると黒土。「なぜ台地は黒土なのだろうか？」そんな疑問を長年、すぐおぼろげにもち続けていた。理科の学習で見た火山灰の色は、黒っぽい色のものもあったが「黒土」ではなかった。社会科学で遺跡の写真をみると、赤土やボラ土の上に黒土はあるようでよく分からない▼今年のさいと学の時間に、その問いは突然解けることとなった。二年生が「火山の噴火と西都の台地の関係」を探究するため、埋蔵文化財センターの方を講師に招いていた。その講話を受講したところ、「火山灰は、地表近くで有機物の堆積と腐植とが一万年ほど繰り返されると「黒ぼく」と呼ばれる黒土になる」そうである。「火山灰はいたるところに降り注いだら、低地では川の氾濫によって流されてしまうため黒土にはなっていない」ということであった▼講話によると、西都原台地が誕生したのは今から約9万年前、一ツ瀬川対岸の茶臼原誕生は約24万年前らしい。それよりも前の時代、大地は茶臼原の高さにあり、茶臼原は、一ツ瀬川と小丸川の扇状地だったそうである。見慣れた大地にだが、なんと悠久の時間が刻まれていることか、そんなことを実感させられる黒土との触合い体験でした。(校長 伊東泰彦)

菜の花植えをする穂北中生



穂北中学校生の地域貢献ボランティア

上記の菜の花植え付けでは、全校生徒の約3割がボランティアに参加してくれていますが、その他にも、11月下旬に市民会館ロビーで行われていた「こどものふるさとSight展」での受付ボランティアに、3年生が参加してくれました。また、12月18日(日)には、パオ隣のあいそめ広場で行われたイルミネーションイベントの司会を依頼され、2年生のフリースタッフの生徒が厳寒の中、がんばってくれました。学校内や穂北地域内だけでなく、西都市全体での活躍がみられるようになり、本当に頼もしく思います。



こどものふるさとSight展での受付ボランティア

【1月・2月の主な行事】

1月

- 6日…始業式
- 6・7日…五教科グランプリ
- 12・13日…実力テスト
- 25・26日…私立高校入試
- 30日…防災安全教室

2月

- 2日…県立高校推薦入試
- 3日…キャリアみらいゼミ(1年生)
- 15・16日…定期テスト
- 21日…参観日、立志式(2年)

12/18イベントでの司会ボランティア

